

## 太平洋・アジア地域における手話言語学に関する養成プログラムの紹介

ジェームス・ウッドワード、グラディス・タン、フェリックス・ゼイ、ジャフィ・リ  
(香港中文大学)

学術分野としての手話言語学は、1960年代にアメリカで始まって以来、世界における手話言語の社会的・言語的地位の変革をもたらしてきた。国連は障害者権利条約の枠組みに基づいて聾者が手話を用いる権利を認めるよう呼びかけ、それに答えて、聾者の教育を支えるため、また手話通訳の必要から、手話言語の専門家の需要はここ数十年で大きく高まった。これは、障害者のためのリソースが限られている発展途上国で特に顕著である。アジア太平洋手話言語研究・研修プログラム（APSLプログラム）は、アジア太平洋地域における手話言語の記述・研究・教育の専門家を聾者・聴者を問わず育成することを目的として、日本財団の資金援助によって2003年に香港中文大学に設置された。過去十年の間、当プログラムの研修モデルの重点は、聾者の社会進出、聾者と聴者の協力、手話言語の諸変種の認知、そして参加諸国で継続してゆける学問の構築に置かれてきた。APSLプログラムが提供する高等教育・大学院教育レベルの正規教育を受けて養成された真摯な手話言語研究者・教育者は、今後はそれぞれの国で手話言語の研究と振興に向けて中心的な役割を果たすことになる。